

第13章 準備書記載事項の修正の概要

「環境影響評価法」第20条第1項の規定及び「電気事業法」第46条の13の規定に基づく準備書についての鹿児島県知事意見を勘案し、「電気事業法」第46条の14第1項の規定に基づく準備書についての経済産業大臣の勧告を踏まえ、準備書の記載内容について検討を加え、その記載事項を修正した。

修正の概要は、第13-1表のとおりである。

第13-1表(1) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書記載頁	修正内容	修正の理由
全般	—	図中の対象事業実施区域及び風力発電機の位置を修正した。	事業計画の見直しによる。
第1章 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地	1-1	主たる事務所の所在地を修正した。	事務所の移転による。
第2章 対象事業の目的及び内容 2.1 対象事業の目的 2.1.1 目的	2-1	「エネルギー基本計画」及び「鹿児島県再生可能エネルギー導入ビジョン」の内容を最新の情報に修正した。	より適切な記載とした。
2.2 対象事業の内容 2.2.3 特定対象事業により設置される発電所の出力	2-2	風力発電所の出力を77,400kW（※最大72,000kW）に修正した。 注釈として「風力発電所の最大出力及び風力発電機の基数は、準備書からの変更なし。」を追記した	より詳細な記載とした。
2.2.4 対象事業実施区域	2-2	対象事業実施区域の面積を修正した。	事業計画の見直しによる。
2.2.5 特定対象事業の主要設備の配置計画その他の土地の利用に関する事項 (1) 主要設備の配置計画 第2.2-1表	2-6	対象事業実施区域及び改変範囲の面積を修正した。	事業計画の見直しによる。
(2) 風力発電機の配置計画の検討と対象事業実施区域の設定 第2.2-2表	2-6	評価書段階の対象事業実施区域の面積を追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
第2.2-4図(2)	2-11	対象事業実施区域について準備書段階と比較した図を追記した。	より詳細な記載とした。
2.2.6 工事の実施に係る工法、期間及び工程計画に関する事項 (1) 工事期間及び工事工程 ① 工事期間	2-12	工事期間を修正した。	事業計画の見直しによる。
② 工事工程 第2.2-3表	2-12	工事工程を修正した。 注釈に、クマタカの事後調査結果による工事工程の見直しの可能性を追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
(2) 主要な工事の方法及び規模 ① 土木工事 イ. 造成工事・基礎工事 第2.2-5図	2-13	風力発電機設置のための作業ヤード(例)を修正した。 縮尺を追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
第2.2-6図	2-14	改変範囲を修正した。	事業計画の見直しによる。
第2.2-7図(1)～(8)	2-15～22	改変範囲を修正した。	事業計画の見直しによる。
第2.2-8図	2-23	工事用・管理用道路の断面図(例)を修正した。	事業計画の見直しによる。
第2.2-9図	2-24	土捨場の断面図(例)を修正した。	事業計画の見直しによる。

第13-1表(2) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書記載頁	修正内容	修正の理由
ロ. 緑化計画	2-24、25	改変面積及び緑化対象面積を修正した。 緑化の考え方について追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
第2.2-4表	2-24	拡幅の可能性がある既設道路の法面及び土地の造成を伴わない樹木の伐採範囲を追記し、改変面積を修正した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
(5) 工事用資材等の運搬の方法及び規模	2-25	工事用資材等の搬出入として使用する道路及び風力発電機の輸送経路として使用する道路の名称を追記した。	より詳細な記載とした。
第2.2-5表	2-25	工事関係車両の台数(最大)を修正した。	事業計画の見直しによる。
第2.2-10図	2-26	縮尺を修正した。 川内港付近の風力発電機の輸送経路を修正した。 風力発電機の輸送経路として使用する道路の名称を追記した。 積替場の位置を追記した。	より詳細な記載とした。 事業計画の見直しによる。
(6) 土地使用面積 第2.2-6表	2-28	拡幅の可能性がある既設道路及び土地の造成を伴わない樹木の伐採範囲を追記し、面積の内訳を修正した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
(7) 騒音及び振動の主要な発生源となる機器の種類及び容量 第2.2-7表	2-28	工事中の騒音及び振動の主要な発生源となる建設機械の種類と容量を修正した。	事業計画の見直しによる。
(8) 工事中の排水に関する事項 ① 雨水排水	2-29	土捨て場、工事用・管理用道路の雨水排水対策を追記した。 沈砂池の管理・監視の方法を追記した。	より詳細な記載とした。
第2.2-12図	2-30	沈砂池の構造図に縮尺及びスケールを追記した。	より詳細な記載とした。
2.2.7 切土、盛土その他の土地の造成に関する事項 (2) 切土、盛土に関する事項 第2.2-8表	2-31	掘削、盛土に関する計画土量を修正した。	事業計画の見直しによる。
(3) 樹木伐採の場所及び規模	2-31	樹木の伐採範囲の面積を修正し、保安林に関する事前協議について追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
第2.2-13図(1)～(8)	2-32～39	樹木の伐採範囲を修正した。	事業計画の見直しによる。
(4) 工事に伴う産業廃棄物の種類及び量 第2.2-9表	2-40	工事に伴う産業廃棄物の量及び処理方法等を修正した。	事業計画の見直しによる。
2.2.8 土石の捨て場又は採取場に関する事項 (1) 土捨て場の場所及び量	2-41	「残土の一部は対象事業実施区域に設置する土捨て場で処分するが、」を「残土の一部は「第2.2-7図(2) 改変範囲図(詳細)」に示す対象事業実施区域に設置する土捨て場で処分するが、」に修正した。 土捨て場の崩壊・地すべり等の対策及び表層の降雨対策並びに環境監視について追記した。 工事終了後の土捨て場の活用について追記した。	より詳細な記載とした。
第2.2-10表	2-41	土捨て場の面積及び容量を修正した。	事業計画の見直しによる。

第 13-1 表 (3) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
2.2.9 供用開始後の定常状態における 操業規模に関する事項 (1) 発電所の主要設備の概要 第2.2-11表	2-42	風力発電機の概要を修正した。 定格回転数を追記した。	事業計画の見直しによる。
第2.2-14図	2-43	ロータ直径、ハブ高さ及び高さを修正した。	事業計画の見直しによる。
(2) 主要な建物等 ② 送電設備 第2.2-15図	2-45	送電線ルートを修正した。	事業計画の見直しによる。
(3) 風力発電機から発生する騒音に関する事項 ① 騒音の風速別 A 特性パワーレベルについて 第2.2-12表	2-46	風力発電機の機種毎の騒音の風速別 A 特性パワーレベルを追記した。	事業計画の見直しによる。
② 振幅変調音 (スイッチシュ音) について 第2.2-16図	2-47	風力発電機の機種毎の騒音の振幅変調音 (スイッチシュ音) を修正した。	事業計画の見直しによる。
第2.2-16図	2-47	風力発電機の機種毎の騒音測定結果 (時間変動) を追記した。	事業計画の見直しによる。
③ 純音性成分について 第2.2-13表	2-48	増速機を使用しないダイレクトドライブ型の風力発電機の採用について追記した。 風力発電機の機種毎の純音の可聴性 (Tonal Audibility) の結果の最大値及び 0 デシベルを超える値が見られる理由を追記した。	事業計画の見直しによる。
第2.2-13表	2-48、49	表題を、「風速別の純音の可聴性」に修正し、風力発電機の機種毎の風速別の純音の可聴性を追記した。	より適切な表現とした。 事業計画の見直しによる。
第2.2-17図	2-48、49	風力発電機の機種毎の発生する騒音の FFT 分析結果を追記した。 注釈に測定距離を追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
2.2.10 温室効果ガス (二酸化炭素) に関する事項	2-50	項目のタイトルを修正した。 工事中の温室効果ガス (二酸化炭素) の排出削減対策について追記した。	より適切な表現とした。 より詳細な記載とした。
第2.2-14表	2-50	樹木の伐採面積を見直し、最新の電気事業者別排出係数を用いて、本事業に伴う二酸化炭素排出削減量を修正した。	事業計画の見直しによる。
2.2.11 その他の事項 (1) 対象事業実施区域周辺における他の風力発電事業 第2.2-15表	2-51	計画中の (仮称) いちき串木野・薩摩川内ウィンドファームの情報を、最新の情報に更新した。 撤去された羽島風力発電所の情報を削除した。 最寄りの風力発電機までの距離を追記した。	より適切な記載とした。 より詳細な記載とした。
第2.2-18図	2-52	計画中の (仮称) いちき串木野・薩摩川内ウィンドファームの情報を、最新の情報に更新し、凡例の色を修正した。 撤去された羽島風力発電所の情報を削除した。 他の風力発電事業の最寄りの風力発電機との距離を追記した。	より適切な記載とした。

第13-1表(4) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書記載頁	修正内容	修正の理由
第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況 3.1 自然的状況 3.1.1 大気環境の状況 (2) 大気質の状況 第3.1-3表	3-4	寄田局及び環境放射線監視センターの廃止の情報を追記した。	より適切な記載とした。
② 光化学オキシダント	3-7	令和4年度における光化学オキシダントの環境基準の達成状況を追記した。	より詳細な記載とした。
3.1.2 水環境の状況 (1) 水象の状況	3-15	河川名の荒川を荒川川に修正した。	誤記を修正した。
第3.1-8図	3-16	河川名の荒川を荒川川に修正した。	誤記を修正した。
3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況 (2) 植物の生育の状況 ③ 植物の重要な種及び重要な植物群落等の分布 ロ. 重要な植物群落	3-55	文献名を修正した。	誤記を修正した。
3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況 (2) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況 第3.1-50表	3-69	「サイクリングロード(甌島ルート)」を追記した。	より詳細な記載とした。
第3.1-31図	3-70	「サイクリングロード(甌島ルート)」を追記した。	より詳細な記載とした。
3.2 社会的状況 3.2.5 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況 (1) 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の状況	3-90	対象事業実施区域から最も近い施設の最寄り風力発電機からの距離を追記した。	より詳細な記載とした。
第3.2-18表	3-90	最寄りの風力発電機から環境の保全についての配慮が特に必要な施設までの距離を追記した。	より詳細な記載とした。
(2) 住宅の配置の状況	3-90	住宅の状況を最新の情報に更新した。 風力発電機から最も近い住宅までの距離を追記した。	より適切な記載とした。 より詳細な記載とした。
第3.2-6図	3-91	住宅等の状況を最新の情報に更新した。	より適切な記載とした。
3.2.8 環境の保全を目的とする法令等により指定された地域その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の環境の保全に関する施策の内容 (1) 公害関係法令等 第3.2-25表	3-98	該当地域を最新の情報に更新した。	より適切な記載とした。
第3.2-26表	3-100	環境基準を最新の情報に更新した。	より適切な記載とした。
第3.2-27表	3-101	環境基準を最新の情報に更新した。	より適切な記載とした。
第3.2-29表	3-104	環境基準を最新の情報に更新した。	より適切な記載とした。

第13-1表(5) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
第3.2-37表	3-114	振動の規制に関する基準を、最新の情報に更新した。	より適切な記載とした。
チ. 残土	3-119	残土に係る法律を追記した。	より適切な記載とした。
第3.2-40表	3-120	盛土規制法の規制の対象行為と必要な手続きを追記した。	より適切な記載とした。
第3.2-15図	3-121	盛土規制法に基づく規制区域を追記した。	より適切な記載とした。
(2) 自然関係法令等 ④ 景観保全関係	3-133	鹿児島県の景観行政団体に関する表記を修正した。	より適切な記載とした。
⑤ 国土防災関係 第3.2-18図	3-135	国有林の情報を反映した。 保安林の情報を修正した。	より適切な記載とした。 誤記を修正した。
第3.2-19図(1)	3-136	砂防指定地及び土砂災害警戒区域等について、最新の情報に更新した。また、文献情報（鹿児島県オープンデータカタログサイト）を追記した。 凡例を最新の情報に更新した。	より適切な記載とした。
第3.2-20図 (3)	3-138	保安林、国土防災に係る指定地等をまとめた図面を追記した。	より詳細な記載とした。
第8章 環境影響評価の項目並びに 調査、予測及び評価の手法 8.1 環境影響評価項目の選定 8.1.1 環境影響評価の項目 (2) 主な地域特性 ① 大気環境	8-2	気象の特性を追記した。 光化学オキシダントの情報を追記した。	より詳細な記載とした。
第8.1-2表	8-5	低周波音（超低周波音を含む）の施設の稼働に係る網掛けを削除した。	より適切な表現とした。
8.1.3 累積的影響に係る環境影響評価の項目の選定	8-9～13	累積的影響に係る環境影響評価の項目の選定を追記した。	より詳細な記載とした。
8.2 調査、予測及び評価の手法の選定 8.2.2 調査、予測及び評価の手法の選定の理由	8-14	計画中の風力発電所との累積的な影響評価の項目を追記した。 累積的な影響を行う際に使用した情報を追記した。	より詳細な記載とした。
(1) 専門家等の意見の概要 第8.2-1表	8-15～18	聞き取りを実施した専門家をそれぞれ個人識別するためにアルファベットを追記した。	より詳細な記載とした。
8.2.1 調査、予測及び評価の手法 第8.2-2表(2)	8-20	「調査期間等」の気象及び交通量に係る文献調査の具体的な年度を記載した。	より詳細な記載とした。
第8.2-2表(3)	8-21	「予測の基本的な手法」に累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-2表(4)	8-22	「調査期間等」の気象に係る文献調査の具体的な年度を記載した。	より詳細な記載とした。
第8.2-2表(7)	8-25	「調査期間等」の気象及び交通量に係る文献調査の具体的な年度を記載した。 「予測の基本的な手法」に累積的な影響を追記した。	より詳細な記載とした。 より適切な記載とした。
第8.2-2表(10)	8-28	「調査期間等」の気象に係る文献調査の具体的な年度を記載した。	より詳細な記載とした。
第8.2-1図(1)	8-29	住宅等の状況を最新の情報に更新した。 他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-2表(11)	8-31	道路交通騒音の状況の等価騒音レベルの測定において準拠したJISの表記に発行年を追記した。	より詳細な記載とした。

第 13-1 表 (6) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
第8. 2-2表 (12)	8-32	「予測の基本的な手法」に累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
第8. 2-2表 (13)	8-33	予測地点を 1 地点追加したことに伴い、「予測地点」の表記を修正した。	より適切な記載とした。
第8. 2-2表 (14)	8-34	騒音の状況の等価騒音レベルの測定において準拠したJISの表記に発行年を追記した。 転居により最寄りの民家が変わったため、調査地点を変更し、新たに最寄りの民家となった環境 6 の調査期間を追記した。	より詳細な記載とした。 より適切な記載とした。
第8. 2-2表 (15)	8-35	転居により最寄りの民家が変わったため、「予測地点」の表記を修正した。	より適切な記載とした。
第8. 2-2表 (16)	8-36	転居により最寄りの民家が変わったため、調査地点を変更した。	より適切な記載とした。
第8. 2-2表 (17)	8-37	新たに最寄りの民家となった環境 6 の調査期間を追加した。 転居により最寄りの民家が変わったため、「予測地点」の表記を修正した。 予測の基本的な手法について、「音の伝搬理論に基づき、予測地点における騒音レベルの予測計算を行った。」を「音源の配置、形状及びA特性パワーレベルを設定し、ISO 9613-2:1996に基づき音の減衰を考慮して予測地点における風力発電機寄与値を算出した。」に修正した。	より適切な記載とした。
第8. 2-2表 (18)	8-38	転居により最寄りの民家が変わったため、調査地点を変更し、新たに最寄りの民家となった環境 6 の調査期間を追記した。	より適切な記載とした。
第8. 2-2表 (19)	8-39	転居により最寄りの民家が変わったため、「予測地点」の表記を修正した。 評価の手法の超低周波音の心理的・生理的影響の評価レベルのISOの表記に発行年を追記した。	より適切な記載とした。 より詳細な記載とした。
第8. 2-2表 (23)	8-43	転居により最寄りの民家が変わったため、調査地点を変更し、新たに最寄りの民家となった環境 6 の調査期間を追加した。	より適切な記載とした。
第8. 2-2表 (24)	8-44	転居により最寄りの民家が変わったため、「予測地点」の表記を修正した。	より適切な記載とした。
第8. 2-1図 (2)	8-45	住宅等の状況を最新の情報に更新した。 新たな予測地点「道路1'」を追記した。 他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を追記した。	より適切な記載とした。
第8. 2-1図 (3)	8-46	住宅等の状況を最新の情報に更新した。 新たに最寄りの民家となった環境 6 の位置を修正した。 他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を更新した。 可視領域の情報を更新した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
第8. 2-4表	8-47	新たな予測地点「道路1'」及び「環境6」を追記した。	より適切な記載とした。
第8. 2-5表 (1)	8-48	土質の状況の濁水中の浮遊物質量の測定において準拠したJISの表記に発行年を追記した。	より詳細な記載とした。

第13-1表(7) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
第8.2-5表(1)、(2)	8-48、49	土捨場の計画を変更したため、土捨場下流に位置するため池の調査及び予測を実施し、その情報を追記した。	事業計画の見直しによる。
第8.2-5表(2)	8-49	「予測の基本的な手法」の降雨条件を修正した。	より適切な記載とした。
第8.2-2図	8-51	新たな調査地点「T1」を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-6表	8-52	調査地点の設定根拠に河川名を追記した。 新たな調査地点「T1」を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-8表(1)	8-53	風力発電機配置変更後に指針値を超えると予測される住宅に対する調査期間を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-3図	8-55	住宅等の状況を最新の情報に更新した。 他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を更新した。	より適切な記載とした。
第8.2-9表(4)～(6)	8-59～61	準備書以降に追加調査を実施した情報を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-4図(1)、(6)～(9)	8-64、 69～72	準備書以降に追加調査を実施した情報を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-4図(3)～(5)	8-66～68	他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を更新した。	より適切な記載とした。
第8.2-4図(5)	8-68	MS5、6からの視野範囲を修正した。	誤記を修正した。
第8.2-4図(6)、(8)	8-69、71	対象事業実施区域及びその周辺の河川及び沢、溪流の位置を追記した。	より詳細な記載とした。
第8.2-18表	8-79	対象事業実施区域内外の区分及び準備書以降に追加調査を実施したW13～17を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-20表(2)	8-81	準備書以降に追加調査を実施した情報を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-5図	8-82	準備書以降に追加調査を実施した情報を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-21表(1)、(3)、(5) 第8.2-22表	8-83、85、87 8-88	準備書以降に実施した営巣木踏査の情報を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-6図(1)～(8)	8-89～96	他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を更新した。	より適切な記載とした。
第8.2-6図(6)	8-94	準備書以降に実施した営巣木踏査の情報を追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-29表(1)	8-102	「調査地域」を風力発電機から約9.5kmの範囲に修正した。 主要な眺望点を11地点に修正した。	事業計画の見直しによる。
第8.2-29表(2)	8-103	「評価の手法」に「鹿児島県風力発電施設の建設等に関する景観形成ガイドライン」（鹿児島県、平成22年）との整合について追記した。	より適切な記載とした。
第8.2-7図	8-104	他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を更新した。 垂直視角1度以上で視認できる可能性のある範囲を約9.5kmの範囲に修正した。 主要な眺望点及び可視領域を修正した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
第8.2-30表	8-105	主要な眺望点を修正した。	事業計画の見直しによる。
第8.2-31表(2)	8-107	「予測の基本的な手法」に累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。

第13-1表(8) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
第10章 環境影響評価の結果 10.1 調査結果の概要並びに予測及び評価の結果 10.1.1 大気環境 (1) 大気質 ① 調査結果の概要 イ. 気象の状況 (ロ) 現地調査 d. 調査方法	10.1.1-9	日射量・放射収支量の観測が気象・大気質調査地点（一般）1地点であることを追記した。	より詳細な記載とした。
第10.1.1-2図	10.1.1-10	住宅等の状況を最新の情報に更新した。他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を追記した。	より適切な記載とした。
e. 調査結果 (c) 大気安定度	10.1.1-22	大気安定度の出現頻度について、中立の記載を修正、やや不安定の記載を追記した。	より詳細な記載とした。
第10.1.1-9表	10.1.1-22	大気安定度の分類を修正した。	誤記を修正した。
ニ. 道路交通量に係る状況 (ロ) 現地調査 e. 調査結果	10.1.1-29	注釈の「昼間及び夜間の交通量は「令和3年度全国道路・街路交通情勢調査 箇所別基本表」（国土交通省、令和5年）の時間帯区分における往復交通量を示す。」を削除した。	誤記を修正した。
② 予測及び評価の結果 イ. 工事の実施 (イ) 工事用資材等の搬出入 a. 環境保全措置	10.1.1-32	タイヤ洗浄水の処理について追記した。	より適切な記載とした。
b. 窒素酸化物の予測 (c) 予測対象時期	10.1.1-32	予測対象時期を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.1-6図	10.1.1-33	工事関係車両による窒素酸化物の月別排出量及び最大排出月を修正した。	事業計画の見直しによる。
(d) 予測手法 第10.1.1-7図	10.1.1-33	累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
i. 計算式 (i) 拡散計算式 ii) 無風・弱風時（風速1.0m/s未満）	10.1.1-34	予測式の字体をイタリック体に修正した。 インデントを修正した。 無風・弱風時の濃度計算式の記号の説明において、W以外の記号の単位を追記した。	より適切な記載とした。
iii) 年平均濃度の計算	10.1.1-35	Catの計算式について、[]の位置を修正した。	誤記を修正した。
ii. 予測条件 (i) 煙源及び台数の諸元 i) 交通量	10.1.1-36	本事業の工事関係車両の台数を修正した。 累積的な影響に係る工事関係車両の台数を追記した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
iii) 大気汚染物質の排出量 第10.1.1-17表	10.1.1-37	最新の車種別排出係数に更新した。	より適切な記載とした。
(e) 予測結果 i. 本事業	10.1.1-38	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
ii. 累積的な影響	10.1.1-39	累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
c. 粉じん等の予測 (c) 予測対象時期	10.1.1-40	沿道2の工事関係車両を生コン打設等に修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.1-8図	10.1.1-40	工事関係車両の月別日最大交通量及び予測対象時期を修正した。	事業計画の見直しによる。

第13-1表(9) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
(d) 予測手法 第10.1.1-9図	10.1.1-41	累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
ii. 予測条件 (i) 交通量及び降下ばいじんの諸元 i) 交通量 第10.1.1-22表	10.1.1-42	事業計画の見直しに伴う日平均交通量を更新した。 累積的な影響予測のための日平均交通量を追記した。	事業計画の見直しによる。 累積的な影響を追加した。
(e) 予測結果 i. 本事業	10.1.1-44	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
ii. 累積的な影響	10.1.1-44	累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
d. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.1-45	環境保全措置にタイヤ洗浄水の処理について追記した。 事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。 累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
(b) 環境保全の基準等との整合性	10.1.1-45	累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
(ロ) 建設機械の稼働 b. 窒素酸化物の予測 (b) 予測地点 第10.1.1-12図	10.1.1-46、 47	住宅等の状況を最新の情報に更新した。 新たに最寄りの民家となった環境6の位置を修正した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
第10.1.1-13図(1)、(2)	10.1.1-48、 49	予測地点の詳細図を追記した。	より詳細な記載とした。
第10.1.1-27表	10.1.1-46、 50	予測地点の設定根拠を追記した。	より詳細な記載とした。
(c) 予測対象時期 第10.1.1-11図	10.1.1-46	建設機械の稼働による窒素酸化物の月別排出量を修正した。	事業計画の見直しによる。
ii. 予測条件 (i) 煙源の諸元 i) 建設機械排ガス排出量の設定	10.1.1-56	定格出力及び負荷率を設定した文献を最新の情報に更新した。	より適切な記載とした。
第10.1.1-34表	10.1.1-57	事業計画の見直しに伴う建設機械の窒素酸化物の排出量を更新した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.1-35表	10.1.1-57	事業計画の見直しに伴う建設機械の稼働による窒素酸化物の月別日排出量を更新した。	事業計画の見直しによる。
(e) 予測結果	10.1.1-60～ 66	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
c. 粉じん等の予測 (c) 予測対象時期 第10.1.1-16図	10.1.1-67	建設機械の稼働による粉じん等の月別排出量の図を追記した。	より詳細な記載とした。
(d) 予測手法 i. 計算式 (i) 風向別・メッシュ別降下ばいじん量の算出式	10.1.1-69	「メッシュ別降下ばいじん量の算出式」を「風向別・メッシュ別降下ばいじん量の算出式」に修正した。	より適切な記載とした。
第10.1.1-18図	10.1.1-69	風向別の発生源の範囲と予測地点の距離の考え方の図を追記した。	より詳細な記載とした。
(e) 予測結果	10.1.1-71	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
d. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.1-72	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
(b) 環境保全の基準等との整合性	10.1.1-72	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。	事業計画の見直しによる。

第13-1表(10) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
(2) 騒音 ① 調査結果の概要 イ. 道路交通騒音の状況 (ロ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.1-19図	10.1.1-73、 74	住宅等の状況を最新の情報に更新した。 新たな予測地点「道路1'」を追記した。 他事業の風力発電機（環境影響評価手続 き中）の情報を追記した。	より適切な記 載とした。
d. 調査方法	10.1.1-73	等価騒音レベルの測定において準拠し たJISの表記に発行年を追記した。	より詳細な記 載とした。
ホ. 騒音の状況（環境騒音） (イ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.1-21図	10.1.1-82、 83	転居により最寄りの民家が変わったた め、新たに最寄りとなった環境6の情報 を追加した。 住宅等の状況を最新の情報に更新した。 可視領域の情報を更新した。	より適切な記 載とした。 事業計画の見 直しによる。
c. 調査期間	10.1.1-82	新たに最寄りの民家となった環境6の 調査期間を追記した。	より適切な記 載とした。
d. 調査方法	10.1.1-82	等価騒音レベルの測定において準拠し たJISの表記に発行年を追記した。	より適切な記 載とした。
e. 調査結果	10.1.1-82	新たに最寄りの民家となった環境6の 調査結果を追記した。	より適切な記 載とした。
ヘ. 騒音の状況（残留騒音） (イ) 現地調査 b. 調査地点	10.1.1-84	転居により最寄りの民家が変わったた め、新たに最寄りの民家となった環境6 の情報を追記した。	より適切な記 載とした。
c. 調査期間	10.1.1-84	新たに最寄りの民家となった環境6の 調査期間を追記した。	より適切な記 載とした。
d. 調査方法 第10.1.1-44表	10.1.1-85	新たに最寄りの民家となった環境6の 解析に用いた期間を追記した。	より適切な記 載とした。
e. 調査結果	10.1.1-86～ 89、92、95～97	新たに最寄りの民家となった環境6の 調査結果を追記した。	より適切な記 載とした。
② 予測及び評価の結果 イ. 工事の実施 (イ) 工事用資材等の搬出入 c. 予測地点	10.1.1-99	新たな予測地点「道路1'」を追記した。	より適切な記 載とした。
d. 予測対象時期	10.1.1-99	予測対象時期を修正した。	事業計画の見 直しによる。
第10.1.1-24図	10.1.1-99	工事関係車両の小型車換算交通量及び 最大月を修正した。	事業計画の見 直しによる。
e. 予測手法 第10.1.1-25図	10.1.1-100	累積的な影響を追記した。	より適切な記 載とした。
(b) 計算値補正式	10.1.1-101	新たな予測地点「道路1'」の情報を追記 した。	より適切な記 載とした。
(c) 予測条件	10.1.1-102	新たな予測地点「道路1'」の情報を追記 した。 工事関係車両の台数を修正した。 他事業の工事関係車両台数を追記した。	より適切な記 載とした。 事業計画の見 直しによる。
f. 予測結果 (a) 本事業	10.1.1-103	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、 予測結果を更新した。	事業計画の見 直しによる。
(b) 累積的な影響	10.1.1-104	累積的な影響を追記した。	より適切な記 載とした。
g. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関 する評価	10.1.1-105	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、 予測結果を更新した。 累積的な影響を追記した。	より適切な記 載とした。 事業計画の見 直しによる。

第13-1表(11) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
(b) 環境保全の基準等との整合性	10.1.1-105	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。 累積的な影響を追記した。 参考として、道路1、道路1'及び道路3についても騒音に係る環境基準と比較した結果を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
(ロ) 建設機械の稼働 c. 予測地点 第10.1.1-26図	10.1.1-106、 107	工事位置を修正した。 転居により最寄りの民家が変わったため、新たに最寄りの民家となった環境6の情報を追加した。 住宅等の状況を最新の情報に更新した。 建設機械の稼働位置を修正した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
e. 予測手法 (b) 予測条件 第10.1.1-51表	10.1.1-110	建設機械の騒音諸元を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.1-52表	10.1.1-111	建設機械の稼働位置を修正した。	事業計画の見直しによる。
f. 予測結果	10.1.1-112、 113	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
g. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.1-113	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
ロ. 土地又は工作物の存在及び供用 (イ) 施設の稼働 c. 予測地点 第10.1.1-29図	10.1.1-114、 115	転居により最寄りの民家が変わったため、新たに最寄りの民家となった環境6の情報を追加した。 住宅等の状況を最新の情報に更新した。 他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を更新した。 可視領域の情報を更新した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
e. 予測手法 (a) 計算式	10.1.1-116	「騒音のエネルギー伝搬予測方法（ISO 9613-2：1996）にしたがって計算した。」を「音源の配置、形状及びA特性パワーレベルを設定し、ISO 9613-2：1996に基づき音の減衰を考慮して予測地点における風力発電機寄与値を算出した。」に修正した。	より適切な記載とした。
ii. 空気吸収による減衰量の算出	10.1.1-116、 117	空気吸収による減衰量の算出において準拠したJIS及びISOの表記に発行年を追記した。 「空気吸収による減衰量 A_{at} は、次式で示される。」を「空気吸収による減衰量 A_{atm} は、次式で示される。」に修正した。	より詳細な記載とした。 誤記を修正した。
(b) 予測条件 i. 風力発電機の配置、種類及び基数 第10.1.1-55表	10.1.1-118	本事業の風力発電機の情報を修正した。	事業計画の見直しによる。
ii. 風力発電機の音響パワーレベルと平均風速 第10.1.1-56表	10.1.1-119	本事業のオクターブバンド毎のA特性音響パワーレベルを修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.1-57表	10.1.1-120	新たに最寄りの民家となった環境6の予測で用いる音響パワーレベルの設定根拠となる風速（平均値）を追記した。	事業計画の見直しによる。
f. 予測結果	10.1.1-121 ～145	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。

第13-1表(12) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
(a) 本事業 第10.1.1-59表	10.1.1-123、 124	予測値と残留騒音の差である増加分を追記した。	より詳細な記載とした。
第10.1.1-30図(1)、(3)、 (4)	10.1.1-125、 127、128	住宅等を図の最前面に表記した。	より適切な記載とした。
第10.1.1-31図	10.1.1-133	指針値の凡例「△」を削除した。	より適切な記載とした。
(b) 累積的な影響 第10.1.1-60表	10.1.1-135 ～136	予測値と残留騒音の差である増加分を追記した。	より詳細な記載とした。
第10.1.1-33図	10.1.1-145	指針値の凡例「△」を削除した。	より適切な記載とした。
g. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.1-146	事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応を追記した。	より詳細な記載とした。
(3) 低周波音 ① 調査結果の概要 イ. 低周波音(超低周波音を含む)の状況 (イ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.1-21図	10.1.1-83、 147	転居により最寄りの民家が変わったため、新たに最寄りの民家となった環境6の情報を追加した。	より適切な記載とした。
c. 調査期間	10.1.1-147	新たに最寄りの民家となった環境6の調査期間を追記した。	より適切な記載とした。
d. 調査方法 第10.1.1-61表	10.1.1-148	新たに最寄りの民家となった環境6の解析に用いた期間を追記した。	より適切な記載とした。
e. 調査結果 (a) 低周波音の状況	10.1.1-149、 150、152、154	新たに最寄りとなった環境6の調査結果を追記した。	より適切な記載とした。
② 予測及び評価の結果 イ. 土地又は工作物の存在及び供用 (イ) 施設の稼働 e. 予測手法 (b) 予測条件 i. 風力発電機の配置、種類、 基数及び仕様 第10.1.1-64表 第10.1.1-65表	10.1.1-158	本事業の風力発電機の情報を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.1-65表	10.1.1-159	本事業の風力発電機の情報を修正した。	事業計画の見直しによる。
f. 予測結果	10.1.1-160 ～194	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
(a) 本事業 第10.1.1-67表	10.1.1-161	超低周波音を感じる最小音圧レベルを示すISOの表記に発行年を追記した。	より詳細な記載とした。
第10.1.1-67表	10.1.1-162	超低周波音を感じる最小音圧レベルを示すISOの表記に発行年を追記した。	より詳細な記載とした。
(a) 累積的な影響 第10.1.1-69表	10.1.1-178	超低周波音を感じる最小音圧レベルを示すISOの表記に発行年を追記した。	より詳細な記載とした。
第10.1.1-69表	10.1.1-179	超低周波音を感じる最小音圧レベルを示すISOの表記に発行年を追記した。	より詳細な記載とした。
g. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.1-195	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。 超低周波音を感じる最小音圧レベルを示すISOの表記に発行年を追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
(4) 振動 ① 調査結果の概要 へ. 振動の状況 (イ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.1-21図	10.1.1-83、 203	転居により最寄りの民家が変わったため、新たに最寄りの民家となった環境6の情報を追加した。	より適切な記載とした。

第13-1表(13) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
c. 調査期間	10.1.1-203	新たに最寄りの民家となった環境6の調査期間を追記した。	より適切な記載とした。
e. 調査結果 第10.1.1-74表	10.1.1-203	新たに最寄りの民家となった環境6の調査結果を追記した。	より適切な記載とした。
② 予測及び評価の結果 イ. 工事の実施 (イ) 工事用資材等の搬出入 d. 予測対象時期	10.1.1-204	予測対象時期を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.1-47図	10.1.1-204	工事関係車両の小型車換算交通量及び最大月を修正した。	事業計画の見直しによる。
e. 予測手法 第10.1.1-48図	10.1.1-205	累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
(c) 予測条件 第10.1.1-75表	10.1.1-207	工事関係車両の台数を修正した。 他事業の工事関係車両台数を追記した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
f. 予測結果 (a) 本事業	10.1.1-208	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
(b) 累積的な影響	10.1.1-209	累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
g. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.1-210	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。 累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
(b) 環境保全の基準等との整合性	10.1.1-210	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。 累積的な影響を追記した。 参考として、道路1及び道路3についても道路交通振動の要請限度と比較した結果を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
(ロ) 建設機械の稼働 e. 予測手法 (b) 予測条件 第10.1.1-78表	10.1.1-213	建設機械の振動諸元を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.1-79表	10.1.1-214	建設機械の稼働位置を修正した。	事業計画の見直しによる。
f. 予測結果	10.1.1-215、 216	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
g. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.1-217	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
10.1.2 水環境 (1) 水質 ① 調査結果の概要	10.1.2-2~8	土捨場の計画を変更したため、土捨場下流に位置するため池の調査を実施し、その情報を追記した。	事業計画の見直しによる。
イ. 水の濁りの状況 (イ) 浮遊物質量の状況 b. 現地調査 (e) 調査結果 第10.1.2-4表(3)	10.1.2-6	浮遊物質量の調査結果に測定時刻を追記した。	より詳細な記載とした。
ロ. 河川流量及びため池貯水量の状況 (イ) 現地調査 a. 河川の流量の状況 (e) 調査結果 第10.1.2-5表(2)	10.1.2-7	河川・水路の流量の調査結果に測定時刻を追記した。	より詳細な記載とした。

第13-1表(14) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
ハ. 気象の状況 (イ) 文献その他の資料調査 a. 降水量の状況 (e) 調査結果 第10.1.2-2図	10.1.2-10	注釈に川内地域気象観測所のデータより作成したことを追記した。	より詳細な記載とした。
ニ. 土質の状況 (イ) 現地調査 d. 調査方法 e. 調査結果 第10.1.2-9表	10.1.2-11	JISの発行年の表記を追記した。	より詳細な記載とした。
第10.1.2-3図	10.1.2-12	注釈に採水位置を追記した。	より詳細な記載とした。
② 予測及び評価の結果 イ. 工事の実施 (イ) 造成等の施工による一時的な影響 a. 環境保全措置	10.1.2-13	軸ラベルをlogに修正した。	より適切な記載とした。
b. 予測地域	10.1.2-13	「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 「工事関係車両の出場時にタイヤ洗浄を行う。必要に応じて搬入路での散水を実施する。」を削除した。	より適切な記載とした。 誤記を修正した。
e. 予測手法 第10.1.2-4図	10.1.2-13、 14	ため池を追記した。	事業計画の見直しによる。
(a) 予測式 iv. 沈砂池排水の到達距離	10.1.2-15	ため池を追記した。	事業計画の見直しによる。
vi. 予測対象ため池の浮遊物質 量	10.1.2-16	沈砂池排水口付近の傾斜(%)の定義を式の注釈として追記した。また、Trimble & Sartzの式で評価することの妥当性を追記した。	より詳細な記載とした。
(b) 予測条件 i. 降雨条件	10.1.2-17、 18	ため池の浮遊物質量の予測式を追記した。	事業計画の見直しによる。
iv. 沈砂池の形状並びに沈砂池の位置及び集水域面積 第10.1.2-7図	10.1.2-20	対象事業実施区域の近傍に位置する気象観測所の至近10年間の降雨状況(第10.1.2-10表)を追記するとともに、日常的な降雨として雨量強度が5mm/hの条件を設定して追記した。また、局所的な強雨として雨量強度が98.5mm/hに変更するとともに、ため池の降雨条件を設定して追記した。	より適切な記載とした。
第10.1.2-14表	10.1.2-21	沈砂池の構造図に縮尺及びスケールを追記した。	より詳細な記載とした。
第10.1.2-8図(1)～(7)	10.1.2-22～ 28	沈砂池面積と集水域面積を修正し、沈砂池体積を追記した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.2-15表	10.1.2-29	沈砂池の位置を修正した。	事業計画の見直しによる。
(c) 予測結果	10.1.2-30、 31	沈砂池排水の浮遊物質算出に用いた沈降特性係数を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.2-14表	10.1.2-31	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。また、No.19からの沈砂池排水の土壌浸透に関する予測を追記した。	事業計画の見直しによる。
f. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.2-32	沈砂池排水口付近の傾斜について、「度」の値を追記した。	より詳細な記載とした。
		「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 環境保全措置の「工事関係車両の出場時にタイヤ洗浄を行う。必要に応じて搬入路での散水を実施する。」を削除した。	より適切な記載とした。 誤記を修正した。

第13-1表(15) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
10.1.3 その他の環境 (1) 風車の影 ① 調査結果の概要 イ. 土地利用の状況 (イ) 文献その他の資料調査 d. 調査結果	10.1.3-1	寄田地区瀬戸野の住宅が転居により無人となったため、記載から除外した。 既設の他事業の風力発電機の撤去予定を1基に修正した。 他事業の風力発電機(環境影響評価手続き中)の情報を更新した。	より適切な記載とした。
ロ. 地形の状況 (イ) 文献その他の資料調査 d. 調査結果	10.1.3-1	風力発電機設置予定位置の標高を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.3-1図	10.1.3-2	住宅等の状況を最新の情報に更新した。 他事業の風力発電機(環境影響評価手続き中)の情報、撤去予定の風力発電機の情報を更新した。	より適切な記載とした。
(ロ) 現地調査 b. 調査地点	10.1.3-3	寄田地区瀬戸野の住宅が転居により無人となったため、記載から除外した。	より適切な記載とした。
第10.1.3-2図	10.1.3-4	空き家となったため、現地調査地点(代表地点)①を変更した。また、住宅の転居に伴い現地調査地点(代表地点)②を変更した。 住宅等の状況を最新の情報に更新した。 他事業の風力発電機(環境影響評価手続き中)の情報、撤去予定の風力発電機の情報を更新した。	より適切な記載とした。
c. 調査期間	10.1.3-3	風力発電機配置変更後に指針値を超えると予測される住宅に対する調査期間を追記した。	より適切な記載とした。
e. 調査結果	10.1.3-3	寄田地区瀬戸野の住宅が転居により無人となったため、記載から除外した。	より適切な記載とした。
第10.1.3-1表	10.1.3-5	空き家となったため、現地調査地点(代表地点)①を変更した。住宅の転居に伴い現地調査地点(代表地点)②を変更した。 最寄りの風力発電機の情報を修正した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
② 予測及び評価の結果 イ. 土地又は工作物の存在及び供用 (イ) 施設の稼働 a. 環境保全措置	10.1.3-6	「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する。」を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
d. 予測手法 (a) 予測条件 第10.1.3-2～4表	10.1.3-6、7	本事業及び(仮称)いちき串木野・薩摩川内ウィンドファーム(環境影響評価手続き中)の風車形状諸元を修正した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
e. 予測結果	10.1.3-7～25	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
(a) 本事業による影響 第10.1.3-3～6図	10.1.3-11～16	図題に「(実際の気象条件等を考慮しない場合)」を追記した。	より詳細な記載とした。
(b) 他事業との累積的な影響 第10.1.3-7～10図	10.1.3-20～25	図題に「(実際の気象条件等を考慮しない場合)」を追記した。	より詳細な記載とした。

第13-1表(16) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
f. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.3-26	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。 環境保全措置に「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する。」を追記した。 遮蔽物がある住宅について、評価結果とは分けて、「実際の風車の影がかかる時間は、予測結果よりも減少すると考えられる。」と修正した。 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応を追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。 より適切な記載とした。
10.1.4 動物 (1) 重要な種及び注目すべき生息地 ① 調査結果の概要 イ. 哺乳類(コウモリ類を除く)相の状況 (ロ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.4-1図	10.1.4-3	準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した直接観察・フィールドサイン法ルートを追記した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.4-2表	10.1.4-4	S9地点の環境概要のスダジイ二次林をシイ・カシ二次林に修正した。	より適切な記載とした。
c. 調査期間 (a) 直接観察・フィールドサイン法	10.1.4-2	準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した調査期間を追記した。	事業計画の見直しによる。
ロ. 哺乳類(コウモリ類)相の状況 (ロ) 現地調査 c. 調査期間 (c) 自動録音法(風況観測塔設置地点)	10.1.4-6	秋季の調査期間を追記した。	より適切な記載とした。
e. 調査結果 (b) 高度別の調査結果	10.1.4-12	秋季の調査結果を追記した。	より適切な記載とした。
(c) 風速別の調査結果	10.1.4-13	秋季の調査結果の情報を追記した。	より適切な記載とした。
第10.1.4-4図	10.1.4-13	カットイン風速(3m/s)を追記した。	より適切な記載とした。
ハ. 鳥類相の状況 (ロ) 現地調査 a. 一般鳥類調査 (b) 調査地点 第10.1.4-13表	10.1.4-17	P7地点の主な植生及び環境概要のスダジイ二次林をシイ・カシ二次林に修正した。	より適切な記載とした。
b. 希少猛禽類調査 (d) 調査方法	10.1.4-38	飛翔高度の区分を修正した。	事業計画の見直しによる。
c. 渡り鳥調査 (b) 調査地点 第10.1.4-7図	10.1.4-40	MS5、6からの視野範囲を修正した。	誤記を修正した。
(d) 調査方法	10.1.4-42	飛翔高度の区分を修正した。	事業計画の見直しによる。
ニ. 爬虫類相の状況 (ロ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.4-8図	10.1.4-44、 45	準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した直接観察法調査ルートを追記した。	事業計画の見直しによる。
c. 調査期間	10.1.4-44	準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した調査期間を追記した。	事業計画の見直しによる。

第13-1表(17) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
ホ. 両生類相の状況 (ロ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.4-8図	10.1.4-45、 47	準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した直接観察法調査ルートを追記した。 対象事業実施区域及びその周辺の河川及び沢、溪流の位置を追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。
c. 調査期間	10.1.4-47	準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した調査期間を追記した。	事業計画の見直しによる。
ヘ. 昆虫類相の状況 (ロ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.4-39表 第10.1.4-9図	10.1.4-50 10.1.4-51	I9地点の地点の環境概要のスタジイ二次林をシイ・カシ二次林に修正した。 準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した一般採集法調査ルートを追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
c. 調査期間 (a) 一般採集法	10.1.4-49	準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した調査期間を追記した。	事業計画の見直しによる。
ト. 魚類相の状況 (ロ) 現地調査 a. 調査地域	10.1.4-53	準備書以降に追加調査を実施したため池を追記した。	事業計画の見直しによる。
b. 調査地点 第10.1.4-10図	10.1.4-54	準備書以降に追加調査を実施した地点W13～17を追記した。 対象事業実施区域及びその周辺の河川及び沢、溪流の位置を追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。 より適切な記載とした。
第10.1.4-41表	10.1.4-55	対象事業実施区域内外の区分及び準備書以降に追加調査を実施した地点W13～17を追記した。	より適切な記載とした。
c. 調査期間 (a) 目視観察・捕獲法	10.1.4-53	準備書以降に追加調査を実施したため池の調査期間を追記した。	事業計画の見直しによる。
e. 調査結果	10.1.4-55～ 57	準備書以降に追加調査を実施したため池の調査結果を反映した。	事業計画の見直しによる。
チ. 底生動物相の状況 (ロ) 現地調査 a. 調査地域	10.1.4-58	準備書以降に追加調査を実施したため池を追記した。	事業計画の見直しによる。
b. 調査地点	10.1.4-58	準備書以降に追加調査を実施した地点W13～17を追記した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
c. 調査期間	10.1.4-58	準備書以降に追加調査を実施した調査期間を追記した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
e. 調査結果	10.1.4-59	準備書以降に追加調査を実施した結果を反映した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
リ. 陸産貝類相の状況 (ロ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.4-11図	10.1.4-61	準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した直接観察法調査ルートを追記した。	事業計画の見直しによる。
c. 調査期間 (a) 直接観察法	10.1.4-60	準備書以降に改変範囲となった箇所について、追加調査を実施した調査期間を追記した。	事業計画の見直しによる。

第13-1表(18) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
ヌ. 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況 (ロ) 現地調査 a. 重要な種の生息状況 (b) 調査結果	10. 1. 4－66～123	対象事業実施区域、改変範囲及び風力発電機設置位置の変更に伴い、重要な種の確認位置及び確認状況を修正した。	事業計画の見直しによる。
ii. 哺乳類（コウモリ類） 第10. 1. 4-47表	10. 1. 4－70	秋季の調査結果を追記した。	より適切な記載とした。
iii. 鳥類 (i) 一般鳥類調査 第10. 1. 4-48表(3)	10. 1. 4－74	キビタキの選定根拠「C:EN」を削除した。	誤記を修正した。
vii. 魚類	10. 1. 4－110、111	準備書以降に追加調査を実施したため池の調査結果を反映した。	事業計画の見直しによる。
viii. 底生動物	10. 1. 4－112、113	準備書以降に追加調査を実施した結果を反映した。	事業計画の見直しによる。
b. 重要な種の詳細調査 (a) サシバ（渡り以外の個体）の詳細調査 iv. 調査方法	10. 1. 4－121	飛翔高度の区分を修正した。	事業計画の見直しによる。
② 予測及び評価の結果 イ. 工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用 (イ) 造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在、施設の稼働 a. 環境保全措置	10. 1. 4－124	「樹木の伐採を必要最小限にとどめる。」を「樹木（特に広葉樹林）の伐採を必要最小限にとどめる。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する。」及び「風力発電機のロータ直径について準備書段階で全て130mであったものを、評価書段階で一部の風力発電機を120mに変更する。」を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
d. 予測手法 第10. 1. 4-65表	10. 1. 4－126、127	「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 植生群落、対象事業実施区域及び改変範囲の面積の変更を反映した。 「スダジイ二次林」を「シイ・カシ二次林」に統合した。 群落名に「ハイキビ群落」を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
e. 予測結果	10. 1. 4－128～227	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
(a) 哺乳類 第10. 1. 4-68表(4)～(8)	10. 1. 4－131～135	秋季の調査結果を予測結果に反映した。	より適切な記載とした。
(b) 鳥類	10. 1. 4－136	「生態系上位性注目種として選定したクマタカの予測及び評価は、騒音による生息環境については本項で行い、その他の影響については「10. 1. 6生態系」の項で行うこととした。」を「生態系上位性注目種として選定したクマタカの影響予測は、騒音による生息環境については本項で行い、改変による生息環境の減少・消失及び飛翔への影響（風力発電機への衝突）については「10. 1. 6生態系」の上位性注目種（クマタカ）の項で影響予測を行うこととした。」に修正した。	より適切な記載とした。
第10. 1. 4-73表(13)	10. 1. 4－174	「改変による生息環境の減少・消失」及び「飛翔への影響（風力発電機への衝突）」の影響予測の結果を「10. 1. 6 生態系」に記載した旨を追記した。	より詳細な記載とした。

第13-1表(19) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
(f) 魚類	10.1.4-213～ 215	準備書以降に追加調査を実施したため 池の調査結果を予測結果に反映した。	事業計画の見 直しによる。
(g) 底生動物	10.1.4-216～ 220	準備書以降に追加調査を実施した結果 を予測結果に反映した。	事業計画の見 直しによる。 より適切な記 載とした。
f. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関 する評価	10.1.4-227、 228	環境保全措置の「樹木の伐採を必要最小 限にとどめる。」を「樹木(特に広葉樹林) の伐採を必要最小限にとどめる。」に修 正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 「風力発電機の高さについて準備書段 階で最大180mであったものを、評価書 段階で最大159mに変更する。」及び「風 力発電機のロータ直径について準備書 段階で全て130mであったものを、評価 書段階で一部の風力発電機を120mに変 更する。」を追記した。 造成等の施工、地形改変及び施設の存在 並びに施設の稼働に伴う重要な種への 影響は「ほとんどない」を「小さい」に 修正した。 事後調査の結果により環境影響の程度 が著しいことが明らかとなった場合の 対応を追記した。	より適切な記 載とした。 事業計画の見 直しによる。 誤記を修正し た。 より詳細な記 載とした。
10.1.5 植物 (1) 重要な種及び重要な群落 ① 調査結果の概要 イ. 植物相の状況 (ロ) 現地調査 b. 調査地点 第10.1.5-1図	10.1.5-3	準備書以降に改変範囲となった箇所につ いて、追加調査を実施した植物相調査 ルートを追記した。	事業計画の見 直しによる。
c. 調査期間	10.1.5-2	準備書以降に改変範囲となった箇所につ いて、追加調査を実施した調査期間を 追記した。	事業計画の見 直しによる。
e. 調査結果	10.1.5-4	準備書以降に追加調査を実施した結果 を反映した。	事業計画の見 直しによる。 より適切な記 載とした。
ロ. 植生の状況 (ロ) 現地調査 b. 調査地点	10.1.5-4	調査地点数を86地点に修正した。	誤記を修正し た。
e. 調査結果	10.1.5-5	本文の第10.1.5-4表の表記に枝番を追 記した。 ヒルムシロクラスをヒシ群落に修正し た。	より適切な記 載とした。
e. 調査結果 第10.1.5-3表	10.1.5-5、6	スダジイ二次林をシイ・カシ二次林に統 合した。 ヒルムシロクラスをハイキビ群落とヒ シ群落に分割した。	より適切な記 載とした。
第10.1.5-2図	10.1.5-8～ 10	スダジイ二次林をシイ・カシ二次林に統 合した。 ヒルムシロクラスをハイキビ群落とヒ シ群落に分割した。	より適切な記 載とした。

第13-1表(20) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書記載頁	修正内容	修正の理由
第10.1.5-4-1表(1)～(5) 第10.1.5-4-2表(1)～(5) 第10.1.5-4-3表(1)～(6) 第10.1.5-4-4表(1)～(4) 第10.1.5-4-5表(1)～(2) 第10.1.5-4-6表(1)～(6) 第10.1.5-4-7表(1)	10.1.5-11～39	表題に枝番及び群落組成表の区分を追記した。 スダジイ二次林をシイ・カシ二次林に統合した。 ヒルムシロクラスをハイキビ群落とヒシ群落に分割した。 群落組成表の罫線を「・」に修正した。 各群落の区分種の括り線の前に「群落区分種」の行を追加した。 区分種以外の種を随伴種として常在度(頻度)の高い順に並べ替えた。 区分種の並び順について群集の標徴種や区分種を先頭に置き、その下に下位単位の区分種を記載し、括り線は破線とした。 各群落の区分種の括り線の太さを細くした。	より適切な記載とした。
ハ．重要な種及び重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況 (イ) 文献その他の資料調査 b．調査方法 第10.1.5-5表(2)	10.1.5-41	重要な群落の選定根拠に植生自然度10及び9の植生を追記した。	より適切な記載とした。
(ロ) 現地調査 c．調査結果	10.1.5-41～76	準備書以降に追加調査を実施した結果を反映した。 植生自然度10及び9の群落を含めた重要な群落の確認結果を追記した。 改変範囲を修正した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
第10.1.5-6表(1)～(13)	10.1.5-42～54	対象事業実施区域、改変範囲及び風力発電機設置位置の変更に伴い、重要な種の確認位置及び確認状況を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.5-7表	10.1.5-75	植生自然度10及び9の群落を追記した。	より適切な記載とした。
第10.1.5-4図(1)～(3)	10.1.5-76～78	植生自然度10及び9の群落を追記した。	より適切な記載とした。
第10.1.5-4図(2)～(3)	10.1.5-77、78	重要な群落の確認位置の拡大図を追記した。	より適切な記載とした。
② 予測及び評価の結果 イ．工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用 (イ) 造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在 a．環境保全措置	10.1.5-79	「樹木の伐採を必要最小限にとどめる。」を「樹木(特に広葉樹林)の伐採を必要最小限にとどめる。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。	より適切な記載とした。
e．予測結果 (a) 重要な種	10.1.5-79～80	生育環境に変化が及ぶ種として、改変により林内環境から林縁環境に変化すると想定される範囲(改変範囲から約50mの範囲)で確認した種を追記した。 予測対象種を修正した。 移植対象種について、「改変範囲内外の確認状況や種の生態特性等を踏まえ、調査地域における植物や植生に精通した専門家へのヒアリング結果を基に選定した。」と修正した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
第10.1.5-9表	10.1.5-81	分布・生態的特徴の作成に使用した既存文献を追加した。	より詳細な記載とした。

第13-1表 (21) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
第10.1.5-10表	10.1.5-82～ 109	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、 予測結果を更新した。 準備書以降に追加調査を実施した結果 を反映した。 生育環境に変化が及ぶ種として、改変に より林内環境から林縁環境に変化する と想定される範囲（改変範囲から約50m の範囲）で確認した種を追記した。 生育地が林内環境から林縁環境に変わ ることによる生育環境の変化の予測結 果を追記した。	事業計画の見 直しによる。
(b) 重要な群落	10.1.5-109～ 112	「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 事業計画の見直しに伴う再予測を行い、 予測結果を更新した。 植生自然度10及び9の群落の確認結果 を追記した。	より適切な記 載とした。 事業計画の見 直しによる。
第10.1.5-11表(2)	10.1.5-111	ヒルムシロクラスをハイキビ群落とヒ シ群落に分割した。	より適切な記 載とした。
第10.1.5-5図	10.1.5-113～ 115	改変範囲を修正した。	事業計画の見 直しによる。
f. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関 する評価	10.1.5-116	環境保全措置の「樹木の伐採を必要最小 限にとどめる。」を「樹木（特に広葉樹林） の伐採を必要最小限にとどめる。」に修 正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 改変範囲外で確認された重要な種のう ち、生育地が林内環境から林縁環境に変 化することによる生育への影響が予測 された種について追記した。 事後調査の結果により環境影響の程度 が著しいことが明らかとなった場合の 対応を追記した。	より適切な記 載とした。 より詳細な記 載とした。
10.1.6 生態系 (1) 地域を特徴づける生態系 ① 動植物その他の自然環境に係 る概況 イ. 調査結果の概要 (ロ) 現地調査 b. 調査結果 第10.1.6-2表	10.1.6-2	動植物の追加調査結果を反映した。	より適切な記 載とした。 事業計画の見 直しによる。
(ハ) 地域の生態系 第10.1.6-3表	10.1.6-4	広葉樹林の群落名からスダジイ二次林 を削除した。 草地等の群落名にハイキビ群落を追記 した。	より適切な記 載とした。
第10.1.6-1図	10.1.6-5	植生区分の分布を修正した。	より適切な記 載とした。
② 複数の注目種等の生態、他の動 植物との関係又は生息環境若 しくは生育環境の状況 ロ. 上位性注目種（クマタカ） (イ) 調査結果の概要 c. 現地調査 (b) 調査地点 iii. 餌量調査 (i) 哺乳類 第10.1.6-12表	10.1.6-18	S9地点の環境概要のスダジイ二次林を シイ・カシ二次林に修正した。	より適切な記 載とした。

第13-1表(22) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
(ii) 鳥類 第10.1.6-13表	10.1.6-19	P7地点の地点の環境概要のスタジイ二次林をセイ・カシ二次林に修正した。	より適切な記載とした。
iv. 営巣木踏査 第10.1.6-9図	10.1.6-15、25	準備書以降に追加調査を実施した営巣木踏査を追記した。	より適切な記載とした。
(c) 調査期間 iv. 営巣木踏査	10.1.6-16	準備書以降に追加調査を実施した営巣木踏査の調査期間を追記した。	より適切な記載とした。
(d) 調査方法 i. 生息状況調査	10.1.6-16	飛翔高度の区分を修正した。	事業計画の見直しによる。
iv. 営巣木踏査	10.1.6-17	準備書以降に追加調査を実施した営巣木踏査の調査方法を追記した。	より適切な記載とした。
(e) 調査結果 i. 生息状況調査 (i) 生息状況調査 i) 確認回数及び確認位置 第10.1.6-15表	10.1.6-26	対象事業実施区域及び風力発電機設置位置の変更に伴い、飛翔高度区分別の確認状況を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.6-10図	10.1.6-27	クマタカの確認位置の一部の飛翔を修正した。	誤記を修正した。
ii. 採餌環境調査 (ii) 採餌可能林の分布 i) 植生の状況 第10.1.6-19表	10.1.6-35	植生・樹林の群落高区分毎の面積を修正した。	より適切な記載とした。
第10.1.6-16図	10.1.6-36	植生・樹林の群落高区分毎の分布を修正した。	より適切な記載とした。
(iii) 採餌可能林解析 iii) 解析結果 第10.1.6-23表	10.1.6-38	各ランクの面積及び割合を修正した。	より適切な記載とした。
第10.1.6-17図	10.1.6-39	採餌環境適合度の分布を修正した。	より適切な記載とした。
iv. 営巣木踏査 (i) 踏査結果	10.1.6-56～58	準備書以降に追加調査を実施した営巣木踏査の調査結果を追記した。	より適切な記載とした。

第13-1表 (23) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
(ロ) 予測及び評価の結果 a. 工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用 (a) 造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設 の存在、施設の稼働 i. 環境保全措置	10. 1. 6－59	「クマタカBペアについては、工事着工前の繁殖期（11月～翌年6月）に生息状況調査を実施し、工事着工前の行動圏内部構造等を適切に把握する。」を追記した。 「樹木の伐採を必要最小限にとどめる。」を「樹木（特に広葉樹林）の伐採を必要最小限にとどめる。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する。」及び「風力発電機のロータ直径について準備書段階で全て130mであったものを、評価書段階で一部の風力発電機を120mに変更する。」を追記した。 「クマタカBペアの幼鳥の行動範囲（推定）に近接する風力発電機及びその周辺において営巣期に実施する工事については、営巣場所の推定域から遠い箇所から徐々に実施する。」を「営巣中心域（繁殖テリトリー）、特にクマタカBペアの幼鳥の行動範囲（推定）に近接する風力発電機及びその周辺の工事については、可能な限り営巣期を避けるように配慮した工程を検討し、止むを得ず営巣期に実施する工事については、営巣場所の推定域から遠い箇所から徐々に実施する。」に修正した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
v. 予測結果	10. 1. 6－60～68	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
(i) 生息への影響 i) Aペアへの影響	10. 1. 6－61	「Aペアの幼鳥の行動範囲（推定）は改変されない（0%）ことから、幼鳥の行動範囲の機能は維持されると考えられる。」を「Aペアの幼鳥の行動範囲（推定）は改変される可能性はほとんどなく、幼鳥の行動範囲の機能は維持される可能性が高いと考えられる。」に修正した。 「工事の実施及び施設の有無によるAペアの生息への影響はほとんどないものと予測する。」を「工事の実施及び施設の有無によるAペアの生息への影響はほとんどない可能性が高いものと予測する。」に修正した。	より適切な記載とした。

第13-1表 (24) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
ii) Bペアへの影響	10. 1. 6－61～ 62	「幼鳥の行動範囲（推定）は改変されない（0％）ことから、幼鳥の行動範囲の機能は維持され则认为られる。」を「幼鳥の行動範囲（推定）は改変される可能性はほとんどなく、幼鳥の行動範囲の機能は維持される可能性が高いと认为られるが、そのすぐ外側で風力発電機の設置を計画しているため、予測結果には不確実性を伴う。」に修正した。 「営巣中心域（繁殖テリトリー）の機能は維持され则认为られる。」を「営巣中心域（繁殖テリトリー）の機能は維持される可能性が高いと认为られるが、多くの風力発電機の設置を計画しているため、予測結果には不確実性を伴う。」に修正した。 「工事の実施及び施設の存在によるBペアの生息への影響は小さいものと予測する。」を「工事の実施及び施設の存在によるBペアの生息への影響はほとんどない可能性が高いものと予測するが、予測結果には不確実性を伴う。」に修正した。	より適切な記載とした。
(ii) 採餌環境への影響	10. 1. 6－63	移動経路の消失及び分断はほとんどないと认为られる理由を追記した。	より詳細な記載とした。
(iv) 飛翔への影響（風力発電機への衝突）	10. 1. 6－64	「幼鳥の行動範囲（推定）内に設置を予定していた風力発電機の配置を変更したこと（第10. 2. 2-2図）から、クマタカの飛翔への影響（風力発電機への衝突）は小さいものと予測する。」を「幼鳥の行動範囲（推定）内に設置を予定していた風力発電機の配置を変更したこと（第10. 2. 2-2図）から、クマタカの飛翔への影響（風力発電機への衝突）は小さい可能性が高いものと予測するが、配置変更した風力発電機は、幼鳥の行動範囲（推定）のすぐ外側での設置を計画していることから、予測結果には不確実性を伴う。」に修正した。	より適切な記載とした。

第13-1表 (25) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
(v) 上位性注目種クマタカへの影響	10. 1. 6－68	「生息については、各ペアの行動圏の内部構造の機能は維持されることが考えられることから、影響は小さいものと予測する。」を「生息については、各ペアの行動圏の内部構造の機能は維持される可能性が高いと考えられることから、影響はほとんどない可能性が高いものと予測するが、Bペアの予測結果には不確実性を伴う」に修正した。 「採餌環境については、いずれの採餌環境適合度ランクにおいても、改変はわずかであり、Aペア、Bペア及び調査地域の個体群の採餌環境への影響はほとんどないものと予測する。」を「採餌環境については、クマタカが最も採餌しやすいと考えられるランクA、ランクBの改変率は1%程度であり、採餌環境や移動経路の消失及び分断はほとんどないと考えられ、Aペア、Bペア及び調査地域の個体群の採餌環境への影響はほとんどないものと予測する。」に修正した。 「クマタカの飛翔への影響（風力発電機への衝突）は小さいものと予測する。」を「クマタカの飛翔への影響（風力発電機への衝突）は小さい可能性が高いものと予測するが、配置変更した風力発電機は、幼鳥の行動範囲（推定）のすぐ外側での設置を計画していることから、予測結果には不確実性を伴う。」に修正した。 「これらを総合すると、本事業における上位性注目種への影響は小さいものと予測する。」を「これらを総合すると、本事業における上位性注目種への影響は小さい可能性が高いものと予測するが、予測結果には不確実性を伴う。」に修正した。	より適切な記載とした。 より詳細な記載とした。

第13-1表 (26) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
vi. 評価の結果 (i) 環境影響の回避・低減に 関する評価	10. 1. 6 - 69～ 70	環境保全措置に「クマタカBペアについては、工事着工前の繁殖期（11月～翌年6月）に生息状況調査を実施し、工事着工前の行動圏内部構造等を適切に把握する。」を追記した。 環境保全措置の「樹木の伐採を必要最小限にとどめる。」を「樹木（特に広葉樹林）の伐採を必要最小限にとどめる。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する。」及び「風力発電機のロータ直径について準備書段階で全て130mであったものを、評価書段階で一部の風力発電機を120mに変更する。」を追記した。 「クマタカBペアの幼鳥の行動範囲（推定）に近接する風力発電機及びその周辺において営巣期に実施する工事については、営巣場所の推定域から遠い箇所から徐々に実施する。」を「営巣中心域（繁殖テリトリー）、特にクマタカBペアの幼鳥の行動範囲（推定）に近接する風力発電機及びその周辺の工事については、可能な限り営巣期を避けるように配慮した工程を検討し、止むを得ず営巣期に実施する工事については、営巣場所の推定域から遠い箇所から徐々に実施する。」に修正した。 「なお、Bペアについては、幼鳥の行動範囲（推定）は改変を行わないこととし、風力発電機の配置計画及び道路計画を変更したものの、そのすぐ外側で風力発電機の設置を計画している。風力発電機ヤードや搬入路及び工事用・管理用道路の造成等の工事に当たっては可能な限り低騒音型の建設機械を使用する、営巣期に行われる工事については営巣場所の推定域から遠い箇所から徐々に実施する等の保全措置を講じるが、工事中の環境保全措置の効果及び供用後の施設の存在による影響については不確実性を伴うため、事後調査を実施する。」を「なお、Bペアについては、風力発電機の配置計画及び道路計画を変更したため、幼鳥の行動範囲（推定）は改変される可能性はほとんどないものの、そのすぐ外側で風力発電機の設置を計画している。風力発電機ヤードや搬入路及び工事用・管理用道路の造成等の工事に当たっては可能な限り低騒音型の建設機械を使用する、営巣期に行われる工事については営巣場所の推定域から遠い箇所から徐々に実施する等の保全措置を講じるが、工事中の環境保全措置の効果、幼鳥の行動範囲の改変の可能性及び供用後の施設の存在による影響については不確実性を伴うため、事後調査を実施する。」に修正した。 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。

第13-1表 (27) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
ハ. 典型性注目種（カラ類） （イ）調査結果の概要 c. 現地調査 （b）調査地点 i. 生息状況調査 第10.1.6-59表	10.1.6-76	P7地点の地点の環境概要のスタジイ二次林をシイ・カシ二次林に修正した。	より適切な記載とした。
ii. 餌量調査 第10.1.6-60表	10.1.6-76	MC9地点の地点の環境概要のスタジイ二次林をシイ・カシ二次林に修正した。	より適切な記載とした。
（d）調査方法 iii. 飛翔高度調査	10.1.6-75	飛翔高度の区分を修正した。	事業計画の見直しによる。
（e）調査結果 i. 生息状況調査 （i）確認個体数 i）繁殖期 第10.1.6-61表	10.1.6-80	「確認したカラ類はヤマガラ及びシジュウカラであり、全地点において両種を確認した。」を追記した。	より詳細な記載とした。
	10.1.6-80	種別の確認個体数を追記した。	より適切な記載とした。
ii）非繁殖期 第10.1.6-62表	10.1.6-81	「確認したカラ類はヤマガラ及びシジュウカラであり、ヤマガラは全地点、シジュウカラはP1（広葉樹林）、P3（スギ・ヒノキ植林）及びP5（広葉樹林）以外の全地点において確認した。」を追記した。	より詳細な記載とした。
	10.1.6-81	種別の確認個体数を追記した。	より適切な記載とした。
（ロ）予測及び評価の結果 a. 工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用の存在及び供用 （a）造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設 の存在、施設の稼働 i. 環境保全措置 v. 予測結果	10.1.6-91	「樹木の伐採を必要最小限にとどめる。」を「樹木（特に広葉樹林）の伐採を必要最小限にとどめる。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。	より適切な記載とした。
vi. 評価の結果 （i）環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.6-92～94	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
	10.1.6-95	環境保全措置の「樹木の伐採を必要最小限にとどめる。」を「樹木（特に広葉樹林）の伐採を必要最小限にとどめる。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。	より適切な記載とした。
10.1.7 景観 （1）主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 ① 調査結果の概要 イ. 眺望点の状況 （イ）文献その他の資料調査 a. 調査地域 c. 調査方法	10.1.7-1	「調査地域」を風力発電機から約9.5kmの範囲に修正した。	事業計画の見直しによる。
	10.1.7-1	「調査方法」の資料名を「いちき串木野市総合観光サイト みなと色、ロマン旅」（いちき串木野市、令和5年11月閲覧）に修正した。	より適切な記載とした。
第10.1.7-1図	10.1.7-2	他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を更新した。 垂直視角1度以上で視認できる可能性のある範囲を約9.5kmの範囲に修正した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
d. 調査結果 第10.1.7-1表	10.1.7-4	注釈に利用形態の説明を追記した。	より詳細な記載とした。

第13-1表 (28) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
ロ．景観資源の状況 (イ) 文献その他の資料調査 a．調査地域	10. 1. 7－5	「調査地域」を風力発電機から約9. 5kmの範囲に修正した。	事業計画の見直しによる。
ハ．主要な眺望点及び眺望景観の状況 (イ) 主要な眺望点の選定 b．選定結果	10. 1. 7－11	主要な眺望点から「天神池公園」を削除し、選定結果を11地点とした。	事業計画の見直しによる。
第10. 1. 7-3表	10. 1. 7－12～15	各眺望点の風力発電機からの距離を修正した。 串木野サンセットパークについて、「風力発電機方向に景観資源は眺望できない。」を追記した。 天神池公園について、「風力発電機の可視領域には含まれない。」に修正し、主要な眺望点の選定結果を「×」に修正した。 柳山について、「地域振興策の一環として風力発電機との一体的な開発が計画されてきた地域に位置する。」を追記した。 滄浪地区（滄浪地区コミュニティセンター）について、「風力発電機の可視領域には含まれない。」に修正した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
第10. 1. 7-4図	10. 1. 7－16	他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を更新した。 垂直視角1度以上で視認できる可能性のある範囲を約9. 5kmの範囲に修正した。 主要な眺望点及び可視領域を修正した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
(ロ) 現地調査 a．調査地域	10. 1. 7－17	風力発電機から約9. 5kmの範囲に修正した。	事業計画の見直しによる。
b．調査地点	10. 1. 7－17	主要な眺望点11地点に修正した。	事業計画の見直しによる。
c．調査期間	10. 1. 7－17	四季の調査を実施しなかった理由を追記した。	より詳細な記載とした。
② 予測及び評価の結果 イ．土地又は工作物の存在及び供用 (イ) 地形改変及び施設の存在 a．環境保全措置	10. 1. 7－18	「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する」及び「造成により生じた裸地部については、必要に応じ緑化する。緑化の際には可能な限り造成時の表土等を活用し、在来植生の早期回復に努める。」を追記した。 風力発電機の塗装を環境融和色のライトグレーに修正した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
b．予測地域	10. 1. 7－18	風力発電機から約9. 5kmの範囲に修正した。	事業計画の見直しによる。
c．予測地点	10. 1. 7－18	主要な眺望点11地点に修正した。	事業計画の見直しによる。
e．予測手法	10. 1. 7－18	フォトモンタージュに使用した写真について、背景の空に雲がかかっている主要な眺望点については、写真の空の色を青空に加工したフォトモンタージュ作成を追記した。	より適切な記載とした。

第13-1表 (29) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
第10.1.7-5図	10.1.7-19～ 21	他事業の風力発電機（環境影響評価手続き中）の情報を更新した。 垂直視角1度以上で視認できる可能性のある範囲を約9.5kmの範囲に修正した。 主要な眺望点及び可視領域を修正した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
f. 予測結果	10.1.7-22～ 54	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
(b) 主要な眺望景観の状況	10.1.7-22	「長崎鼻公園」、「山之口・前向棚田」、「柳山」、「月屋山」及び「峰山地区（峰山地区コミュニティセンター）」については、写真の空の色を青空に加工したフォトモンタージュ作成を追記した。	より適切な記載とした。
(b) 主要な眺望景観の状況 第10.1.7-7表	10.1.7-23	「なお、柳山周辺は地域振興策の一環として風力発電機との一体的な開発が計画されてきた地域であり、地域振興策との調和を図りつつ、環境保全措置を実施することにより、地形改変及び施設の存在による主要な眺望景観への影響を低減できるものと予測する。」を追記した。	より適切な記載とした。
第10.1.7-15表(1)～(4)	10.1.7-25～ 28	他事業の風力発電機と主要な眺望点との距離及び垂直視角を追記した。	より適切な記載とした。
第10.1.7-6図(3)、(6)、 (9)、(12)、(15)、 (18)、(21)	10.1.7-32、 34、37、41、44、 47、50	青空に加工した写真及びフォトモンタージュを追記した。	より適切な記載とした。
g. 環境融和色による影響低減 効果の検証	10.1.7-62～ 65	環境融和色による影響低減効果の検証結果を追記した。	より適切な記載とした。
h. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する 評価	10.1.7-66、 67	「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する」及び「造成により生じた裸地部については、必要に応じ緑化する。緑化の際には可能な限り造成時の表土等を活用し、在来植生の早期回復に努める。」を追記した。 風力発電機の塗装を環境融和色のライトグレーに修正した。 風力発電機の見え方の目安を踏まえ、評価の記載を修正した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
(b) 国又は地方公共団体による 基準又は目標との整合性 の検討	10.1.7-68	国又は地方公共団体による基準又は目標との整合性の検討を追記した。	より適切な記載とした。
(c) 累積的影響	10.1.7-69	累積的影響の評価結果を追記した。	より適切な記載とした。
10.1.8 人と自然との触れ合いの活動の場 (1) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 ① 調査結果の概要 イ. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況 (イ) 文献その他の資料調査 c. 調査結果	10.1.8-1	人と自然との触れ合いの活動の場の調査地点数を30地点に修正した。	より適切な記載とした。

第13-1表(30) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書記載頁	修正内容	修正の理由
第10.1.8-1表	10.1.8-2、3	人と自然との触れ合いの活動の場の距離を修正した。 人と自然との触れ合いの活動の場にサイクリングロード（甌島ルート）を追記した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
第10.1.8-1図	10.1.8-4	人と自然との触れ合いの活動の場にサイクリングロード（甌島ルート）を追記した。	より適切な記載とした。
ロ. 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布 (イ) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の選定	10.1.8-5	主要な人と自然との触れ合いの活動の場にサイクリングロード（甌島ルート）を選定しなかった理由を追記した。	より適切な記載とした。
ハ. 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用の状況及び利用環境の状況 (イ) 文献その他の資料調査 d. 調査方法	10.1.8-6	文献情報を最新のものに更新した。	より適切な記載とした。
② 予測及び評価の結果 イ. 工事の実施 (イ) 工事用資材等の搬出入 d. 予測対象時期	10.1.8-12	予測対象時期を修正した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.8-3図	10.1.8-12	工事関係車両の月別交通量及び最大月を修正した。	事業計画の見直しによる。
f. 予測結果 (a) 本事業	10.1.8-14、15	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
(b) 累積的な影響	10.1.8-16、17	累積的な影響を追記した。	より適切な記載とした。
g. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.8-18	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。 累積的な影響を追記した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
10.1.9 廃棄物等 (1) 産業廃棄物及び残土 ① 予測及び評価の結果 イ. 工事の実施 (イ) 造成等の施工による一時的な影響 e. 予測結果 第10.1.9-1表	10.1.9-2	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
第10.1.9-2表	10.1.9-2	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、予測結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
f. 評価の結果 (a) 環境影響の回避・低減に関する評価	10.1.9-3	事業計画の見直しに伴う再予測を行い、評価の結果を更新した。	事業計画の見直しによる。
10.2 環境の保全のための措置 10.2.2 環境保全措置の検討の経過及び結果 (1) 対象事業実施区域の設定	10.2-2	保安林区域に風力発電機を設置する理由を追記した。 評価書段階における対象事業実施区域の設定の経緯について追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
第10.2.2-1図(2)	10.2-4	準備書段階との対象事業実施区域の比較を追記した。	事業計画の見直しによる。
(2) 風力発電機の配置計画	10.2-5	評価書段階での風力発電機高さの見直しについて追記した。 クマタカの生息状況調査結果により配置計画を変更した風力発電機について、準備書届出前の環境保全措置検討時に見直しを行った旨を追記した。	事業計画の見直しによる。 より詳細な記載とした。

第13-1表(31) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
第10.2.2-2図	10.2-6、7	風力発電機の凡例に、配置計画を検討した時期を追記した。	より詳細な記載とした。
(3) 工事の実施における環境保全措置の検討 ① 大気質 ロ. 粉じん等	10.2-8	工事用資材等の搬出入について、「タイヤ洗浄水の処理については、付近に沈砂枡を設け、土壌浸透を行う。」を追記した。	より適切な記載とした。
③ 水質(水の濁り)	10.2-10	「改変区域」を「改変範囲」に修正した。 「工事関係車両の出場時にタイヤ洗浄を行う。必要に応じて搬入路での散水を実施する。」を削除した。	より適切な記載とした。 誤記を修正した。
④ 動物、植物、生態系 イ. 動物 ロ. 植物 ハ. 生態系	10.2-10～12	「樹木の伐採を必要最小限にとどめる。」を「樹木(特に広葉樹林)の伐採を必要最小限にとどめる。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。	より適切な記載とした。
ハ. 生態系	10.2-11、12	「クマタカBペアについては、工事着工前の繁殖期(11月～翌年6月)に生息状況調査を実施し、工事着工前の行動圏内部構造等を適切に把握する。」を追記した。 「クマタカBペアの幼鳥の行動範囲(推定)に近接する風力発電機及びその周辺において営巣期に実施する工事については、営巣場所の推定域から遠い箇所から徐々に実施する。」を「営巣中心域(繁殖テリトリー)、特にクマタカBペアの幼鳥の行動範囲(推定)に近接する風力発電機及びその周辺の工事については、可能な限り営巣期を避けるように配慮した工程を検討し、止むを得ず営巣期に実施する工事については、営巣場所の推定域から遠い箇所から徐々に実施する。」に修正した。	より適切な記載とした。
② 風車の影	10.2-13	「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する。」を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
(4) 土地又は工作物の存在及び供用における環境保全措置の検討 ③ 動物、植物、生態系 イ. 動物 ロ. 植物 ハ. 生態系	10.2-13、14	「樹木の伐採を必要最小限にとどめる。」を「樹木(特に広葉樹林)の伐採を必要最小限にとどめる。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。	より適切な記載とした。
イ. 動物 ハ. 生態系	10.2-13、14	「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する。」及び「風力発電機のロータ直径について準備書段階で全て130mであったものを、評価書段階で一部の風力発電機を120mに変更する。」を追記した。	より適切な記載とした。 事業計画の見直しによる。
ハ. 生態系	10.2-14	「クマタカBペアについては、工事着工前の繁殖期(11月～翌年6月)に生息状況調査を実施し、工事着工前の行動圏内部構造等を適切に把握する。」を追記した。	より適切な記載とした。

第13-1表(32) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書記載頁	修正内容	修正の理由
④ 景観	10.2-14	「風力発電機の高さについて準備書段階で最大180mであったものを、評価書段階で最大159mに変更する」及び「造成により生じた裸地部については、必要に応じ緑化する。緑化の際には可能な限り造成時の表土等を活用し、在来植生の早期回復に努める。」を追記した。 風力発電機の塗装を環境融和色のライトグレーに修正した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
(5) 助言を受けた専門家の専門分野及びその内容について 第10.2.2-1～3表	10.2-15～22	聞き取りを実施した専門家をそれぞれ個人識別するためにアルファベットを追記した。	より詳細な記載とした。
第10.2.2-4～12表	10.2-23～28	評価書段階において助言を受けた専門家の専門分野及びその内容を追記した。	より適切な記載とした。
10.2.3 環境保全措置の検討結果の整理 (1)「工事の実施」に係る環境保全措置 第10.2.3-2表	10.2-30	措置の効果について、「タイヤ洗浄水の処理については、付近に沈砂槽を設け、土壌浸透を行うこと。」を追記した。	より適切な記載とした。
第10.2.3-7表	10.2-33	措置の効果について、「工事関係車両の出場時にタイヤ洗浄を行うこと。必要に応じて搬入路での散水を行うことで水の濁りを低減できる。」を削除した。	誤記を修正した。
第10.2.3-8表(1)	10.2-34	「工事着工前の生息状況調査の実施」を追記した。 措置の効果のうち、「樹木の伐採を必要最小限とする。」を「樹木(特に広葉樹林)の伐採を必要最小限とする。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。	より適切な記載とした。
第10.2.3-8表(2)	10.2-35	措置の内容について、「可能な限り営巣期を避けるように配慮した工程を検討し、」を追記した。 措置の効果について、「営巣中心域(繁殖テリトリー)、特にクマタカBペアの幼鳥の行動範囲(推定)に近接する風力発電機及びその周辺の工事については、可能な限り営巣期を避けるように配慮した工程を検討し、」を追記した。	より適切な記載とした。
第10.2.3-9表	10.2-36	措置の効果のうち、「樹木の伐採を必要最小限とする。」を「樹木(特に広葉樹林)の伐採を必要最小限とする。」に修正した。 「改変区域」を「改変範囲」に修正した。	より適切な記載とした。
(2)「土地又は工作物の存在及び供用」に係る環境保全措置 第10.2.3-13表	10.2-39	「風力発電機の高さ配慮」及び「風力発電機のロータ直径配慮」を追記した。	より適切な記載とした。
第10.2.3-14表	10.2-40	「工事着工前の生息状況調査の実施」及び「風力発電機の高さ配慮」を追記した。 措置の効果のうち、「樹木の伐採を必要最小限とする。」を「樹木(特に広葉樹林)の伐採を必要最小限とする。」に修正した。	より適切な記載とした。
第10.2.3-15表	10.2-40	措置の効果のうち、「樹木の伐採を必要最小限とする。」を「樹木(特に広葉樹林)の伐採を必要最小限とする。」に修正した。	より適切な記載とした。

第13-1表(33) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書記載頁	修正内容	修正の理由
第10.2.3-16表	10.2-41	「裸地部の緑化」及び「風力発電機の高さの配慮」を追記した。 風力発電機の塗装を環境融和色のライトグレーに修正した。	より適切な記載とした。
10.2.4 環境保全措置に係る環境監視計画	10.2-42	工事中の水環境の環境監視計画を追記した。	より適切な記載とした。
10.3 事後調査 10.3.1 事後調査	10.3-1	事後調査の結果を取りまとめた報告書について、「関係機関に送付する」旨を追記した。	より適切な記載とした。
第10.3.1-1表(1)	10.3-2	騒音の調査地点を4地点から6地点に修正した。 騒音の調査期間を「原則として虫やカエル等の一過性の音の発生が少ない時期」に修正した。 風車の影の環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針について、環境影響の程度が著しい場合の具体的な内容、追加の環境保全措置の具体的な内容を追記した。	より適切な記載とした。
第10.3.1-1表(2)	10.3-3	コウモリ類・鳥類の死骸調査の調査方法について、調査範囲を修正し、調査手法に「死骸、傷病鳥発見時の記録方法、緊急連絡先一覧等を記載した調査マニュアルの作成、」及び「死体除去実験(捕食者による持ち去り調査)等も併せて実施する。」を追記した。また、墜落個体発見時の対応を追記した。	事業計画の見直しによる。 より適切な記載とした。
第10.3.1-1表(3)	10.3-4	クマタカの生息状況調査について、事後調査を行うこととした理由の「幼鳥の行動範囲(推定)は改変を行わないこととし、風力発電機の配置計画及び道路計画を変更したものの」を「風力発電機の配置計画及び道路計画を変更したため、幼鳥の行動範囲(推定)は改変される可能性はほとんどないものの」に修正し、修正した環境保全措置内容を記載した。また、不確実性を伴う理由に「幼鳥の行動範囲の改変の可能性」を追記した。 クマタカの生息状況調査について、調査方法の調査頻度を修正した。	より適切な記載とした。
第10.3.1-1表(4)	10.3-5	事後調査を行うこととした理由及び調査方法について、生育地が林内環境から林縁環境に変化することによる生育への影響が予測された種に対する調査内容を追記した。	より適切な記載とした。
10.3.2 検討結果の整理 (1) 工事の実施 ④ 植物	10.3-7	事後調査を実施することとした理由について、「生育地が林内環境から林縁環境に変化することによる生育への影響が予測された種について生育状況の確認が必要なことから」を追記した。	より適切な記載とした。
(2) 土地又は工作物の存在及び供用 ① 大気環境	10.3-8	事後調査時期を、「稼働後の一過性の音の発生が少ない時期」に修正した。 事後調査を実施することとした理由の調査地点を「現地調査を実施した6地点(環境1～6)」に修正した。	より適切な記載とした。

第13-1表(34) 準備書記載事項の修正の概要

項目	評価書 記載頁	修正内容	修正の理由
④ 植物	10.3-9	事後調査を実施することとした理由について、「生育地が林内環境から林縁環境に変化することによる生育への影響が予測された種について生育状況の確認が必要なことから」を追記した。	より適切な記載とした。
10.4 環境影響の総合的な評価	10.4-2～70	「10.1 調査結果の概要並びに予測及び評価の結果」における追加又は修正内容を反映した。	記載内容の見直しによる。